

防災教育 はじめの一步 - 知ること受けとめることからはじめよう -

防災教育のねらいのひとつには、正しい情報に基づき冷静に判断し、ひとまかせにしないで行動できるようにすることがあります。自然災害や原子力災害に関連した知識を広く得て、柏崎市の置かれている状況を冷静にみつめるとともに、災害時のさまざまな選択について知る「防災教育のはじめの一步」となる学習が大切です。

1 防災教育の初期段階を大切にしたい単元構成

中学生の率先避難行動が地域住民の命を救った「釜石の奇跡」は、防災教育の重要性を象徴しています。この学習が家族や地域に、防災への準備を働きかける生徒に育ってほしいと願い次のような単元を構想しました。

単元構想図		学習活動
はじめの一步 - 知ること受けとめることからはじめよう -		
教材について 本校の立地をふまえ、防災についての正しい知識を得て、よりよい判断で生き抜く力をはぐくむことを目的として、主に「新潟県防災教育プログラム」「柏崎市防災ガイドブック」を用いた。	思考・判断・表現 災害時の避難について得た知識をもとに非常持ち出し品を考える。(思考) 非常持出袋を作る(表現) 災害時の具体的行動を AND と OR で表記する(判断)	1 防災ガイドブック(自然災害編)を読み、知識を得たり避難行動について確かめたりする。
		2 防災ガイドブック(原子力災害編)を読み、放射線についての知識を確認したり、避難行動と避難経路を確かめたりする。
		3 非常持出品をカスタマイズする学習を通して、必要なもの考えるようになる。
		4 非常持出品を見せ合いながら、持出品の価値に気が付いたり、よりよい避難行動について考えたりする。
		5 「AND と OR」樹形図を用いて、避難行動を想定する。
知識・理解 自然災害、原子力災害についてガイドブック等から知識を得ている。 災害から身を守ったり助け合ったりする方法や心構えを理解している。	学びに向かう力 地域の特徴を知り、災害から生き抜くための知識を自ら得ようとする。避難生活をイメージし、世のために人のために自分はどうかを考えるようになる。	
(目指す生徒の姿) 防災に関して人任せにしないで自ら動く姿 放射能を「正しく知って正しく怖がる」姿 世のため人のために何ができるか考え続ける姿		

2 指導の実際

2時間目

防災ガイドブック(原子力災害編)を読み、放射能についての知識を確認したり、避難行動と避難経路を確かめたりする。

展開	学習活動	教師の働きかけ	留意点
導入	柏崎防災ガイドブック(原子力災害編)を読む学習であることを知る。		人数分用意する。

原子力災害について「知っていること」「知りたいこと」をワークシートに書き、班(4人一組)で発表し合いなさい。

防災教育の実践（例：中学校理科「放射線」、社会「エネルギー問題」、総合的な学習）

展 開	<p>防災ガイドブックを読むので、大切だと思うところに付箋を貼ります。次に、ペアの人と交流を行います。さらに、小グループで交流します。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ p 4～21を読み、基礎知識や避難行動について知る。 ・ 自分にとって大切だと思った情報とその理由を述べたり、他者の話を聞いたりしながら、共通する部分と違う部分に気がつく。 	<p>KWL シートの書き方を説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動が停滞しているペアに声をかけ、説明の仕方の例を示す。
終 末	<p>「新しく知ったこと」と「学習の振り返り」を書きなさい。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しく知ったことと振り返りを書く。 		

【授業の概要と授業づくりのヒント】

生徒は、防災ガイドブックを読むことでたくさんの知識が得られました。学習の振り返りで「いつでも避難できるようにしておきたい」と感想が見られました。学校の避難訓練の直前に「自然災害編」と「原子力災害編」を読み、訓練と関連づけて行うことが有効です。

3時間目 非常持出品をカスタマイズする学習を通して、必要なものを考えるようになる。

	学習活動	教師の働きかけ	留意点
導 入	<p>ヘルメットをかぶり大きなリュックサックを背負い安全靴をはいた先生を見る。</p>	<p>避難行動のイメージを持たせる。</p>	
	<p>今日の学習は「非常用持出品を自分用にカスタマイズする」です。</p>		
	<p>この袋には柏崎防災ガイドブックにあるものを入れました。これを背負って何キロも歩くのはつらいので、少し整理しようと思います。アイテムが「すごく必要」なら赤ペン、「まあまあ必要」なら青ペンで囲みなさい。班で意見を集約し、タブレットから画像を先生に送りなさい。</p>		
展 開	<p>写真に赤と青で丸をつける。班（4人組）で見せ合う。班の意見をまとめ、タブレットの画像に丸をつける。班の画像を先生に送る。他の班の結果と見比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤や青や囲まなかった理由を発表したり発表を聞いたりする。 		
	<p>画像を見比べましょう。班ごとに発表してもらいます。</p>		
	<p>チェックリストに印を付けます。非常持出袋を作り、次の授業に持ってきます。そのとき「私の宝物」も入れてきてください。</p>		
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなの考えを参考にしながら、自分にとって必要なものを考えてチェックを入れる。 	<p>先生の宝物を紹介し、イメージを膨らませる。</p>	

防災教育の実践 (例：中学校理科「放射線」、社会「エネルギー問題」、総合的な学習)

【授業の概要】

非常持ち出しの中に「宝物」を入れることで実感が生まれ、避難後の過ごし方まで考えを巡らす契機となりました。

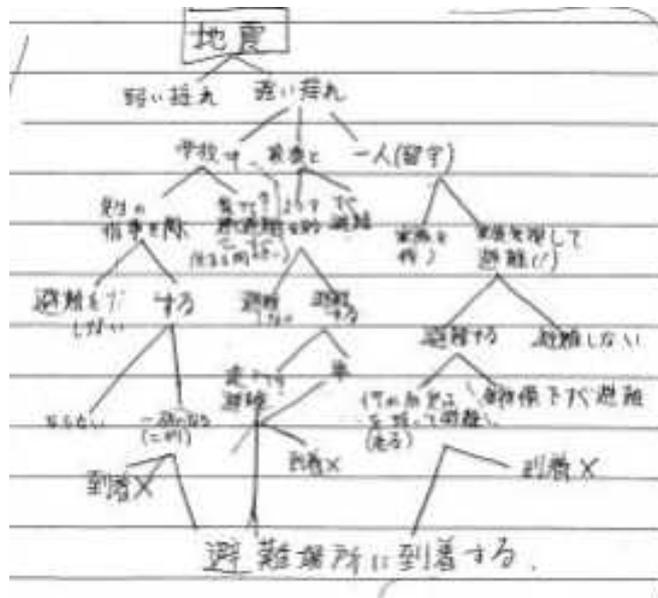
生徒の話し合いで、薬帳の持参について意見交換が生まれました。避難後の生活を推し量り、考えが深まっています。

5時間目 「AND と OR」 樹形図を用いて、避難行動を想定する。

	学習活動	教師の働きかけ	留意点
導入	朝起きてから、学校に来るまで、人はさまざまの選択と決定をしていることを知る。	起床から登校までの行動を樹形図にする。	身近な例で示す。
展開	災害の時、どんな選択をしているのか、樹形図で示してみましょう。		
	ワークシートに記入する。 ペアになって見せ合い違いを感じる。	災害直後、避難時、避難後に分けて考えさせる。	
	有効な避難行動について考えを述べ合ひましょう。 小グループになり見せ合い、理由を尋ねたり説明したりする。		
終末	自分はどのようなことに気を付けて避難行動をするか書きなさい。	枝分かれする部分の観点を示す。	

【授業の概要と授業づくりのヒント】

地震などの災害発生の際にどのような選択をするか樹形図にまとめました。図のようにD介さんは、「災害時の場所」「人数」「情報収集」「持ち物」「避難所への移手段」などをイメージしながら作成しました。災害発生を具体的にイメージすることと、時間経過による避難行動の変化を図形化するプロセスを学習過程にもつことで、防災への意欲が高まります。



D介さんの書いた樹形図

3 結果、成果

学習のまとめで生徒が記述したものから、防災教育で目指す姿に関連したものを取り上げて紹介します。それをふまえ、学習の成果と課題を考察します。

防災教育の実践（例：中学校理科「放射線」、社会「エネルギー問題」、総合的な学習）

（1） 防災に関してひとまかせにしないで自ら動く姿

A子の感想

今まで私は、災害時の荷物は食べ物とか着替えだけで十分だと思っていたし、親が用意してくれるだろうと思って家ではやりませんでした。中学校に入って、防災学習が増えていくうちに「誰かがするんじゃなくて自分でしなきゃ」と思うようになってきました。もし一人の時に地震が起きたら、家族と連絡を取り自分がどこにいて何をしているのかを伝え避難所に向かう、というのをやりたいと思います。

B子の感想

もし地震で一人の時、どうやって逃げたら良いのか不安になりました。こういう時は電話はつながらないと思うから、まず自分の命を守ることが大切なんだと思いました。家の物をそのままにして行くのではなく、すべての電源を切ってから行くこと、食料などをなるべく多く持って行くことが大切だと思いました。

（2） 放射能を正しく知って、正しく怖がる姿

C男の感想

避難にはすぐ離れること、コンクリートの建物に入ること、放射線を浴びる時間を短くすること、どれも放射線の事故が起こったときに役立つと思いました。内部被ばくを防ぐために簡単なマスク着用、長袖、ほこりを払うなどをしようと思う。放射線は悪いイメージしか持っていないという方もいるけれど、いろんなことに使っているよ、そう教えたい。

D子の感想

「放射線がうつる～！近づくな。」といういじめに返す言葉を考えました。浴びすぎると危ないけれど、人から人にはうつらないことがわかりよかったです。

（3） 世のため人のために何ができるか考え続ける姿

E子の感想

福島と神戸を比べたとき、津波と地震は全く違うことに気が付きました。さらに原発の危機で違う場所に避難したり放射能の影響で今でも帰れなかったりします。福島の子どもの気持ちも少しでも知れたらいいなと思いました。福島は未来に向けて今も復興を続けていると思います。これから未来に向けて手伝いができるのであればしたいと思います。なぜなら、中越沖地震で助けられたので、今度は福島の人を助けたいと思ったからです。将来誰かの役に立ちたいと思って、ボランティア活動をしたいと思っています。

災害時の状況は刻一刻と変化します。情報格差が生死を分けることもあることをふまえ、「知る」活動を大切にしました。東日本大震災時の海上保安庁のDVDを見せたり、放射能いじめに関する道徳資料を読ませたり、東北各県の防災ガイドブックを教室に置きすぐに読めるようにしたり、避難生活での知恵を漫画にまとめたものを配ったりしました。

これらの知識を「じぶん」とつなげるために、非常持出袋の準備や樹形図作成等の活動を繰り返しました。また、C男やD子の感想からは、放射能に関する正しい認識がはぐくまれていることがわかります。

自ら行動できる姿勢を粘り強く育てながら、世のため人のために何ができるか考え続ける「防災教育のはじめの一步」が大切です。

【松浜中学校 山本直恵】